

## 諏訪之瀬島の火山活動解説資料（平成 25 年 10 月）

福岡管区気象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方気象台

御岳<sup>おたけ</sup>火口では、13日から15日と21日から22日にかけて、ごく小規模な噴火<sup>1)</sup>が発生しました。今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

平成19年12月1日に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

### ○ 10月の活動概況

#### ・噴煙など表面現象の状況（図1、図3-①⑥）

御岳<sup>おたけ</sup>火口では、13日から15日と21日から22日にかけて、ごく小規模な噴火が発生しました。噴火に伴う灰白色の噴煙は、概ね火口縁上600mで経過しました。噴煙の最高高度<sup>2)</sup>は火口縁上800m（9月：最高1,400m）でした。

また、同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映<sup>3)</sup>を時々観測しました。

十島（としま）村役場諏訪之瀬島出張所によると、15日と21日に集落（御岳の南南西約4km）で降灰が確認されました。

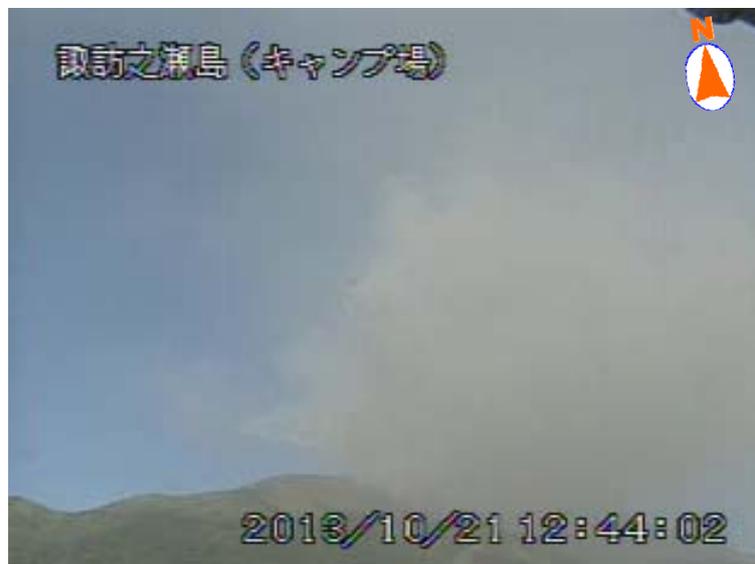


図1 諏訪之瀬島 噴火の状況（10月21日、キャンプ場遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成25年11月分）は平成25年12月9日に発表する予定です。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平23情使、第467号）。

・地震や微動の発生状況（図 3-②～⑤⑦～⑩、図 4）

火山性地震の月回数は、A型地震<sup>4)</sup> 131回（9月：331回）、B型地震<sup>5)</sup> 64回（9月：303回）と減少しました。9日10時06分に、十島村諏訪之瀬島で震度2を観測する地震が発生しました。

火山性微動は、断続的に発生しています。火山性微動の継続時間の月合計は77時間18分（9月：178時間4分）でした。

・地殻変動の状況（図 2、図 5）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

- 1) 諏訪之瀬島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは噴煙量が中量以上（概ね噴煙の高さが1,000m以上）の噴火の回数を計数しています。資料の噴火回数はこの回数を示します。また、基準に達しない噴火は、ごく小規模な噴火としています。
- 2) 2003年3月28日以降、噴煙の最高高度は遠望監視カメラによる観測値と十島村役場諏訪之瀬島出張所の報告のうち高い値を用いています。
- 3) 赤熱した溶岩や高温の火山ガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象です。
- 4) 火山性地震のうち、P波、S波の相が明瞭で比較的周期の短い地震で一般的に起こる地震と同様、地殻の破壊によって発生していると考えられ、マグマの貫入に伴う火道周辺の岩石破壊によって発生していることが知られています。
- 5) 火山性地震のうち、相が不明瞭で、比較的周期が長く、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震で、火道内のガスの移動やマグマの発泡などにより発生すると考えられています。

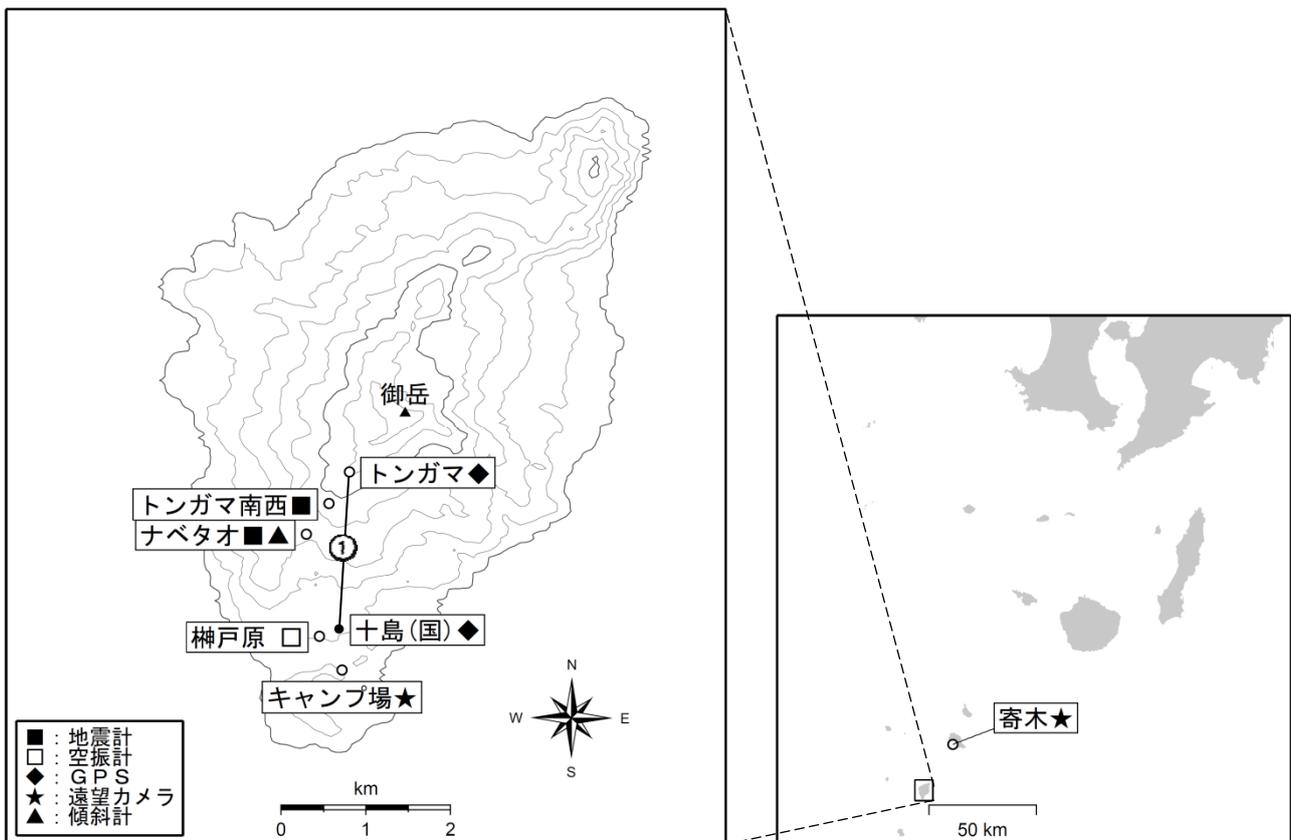


図 2 諏訪之瀬島 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院

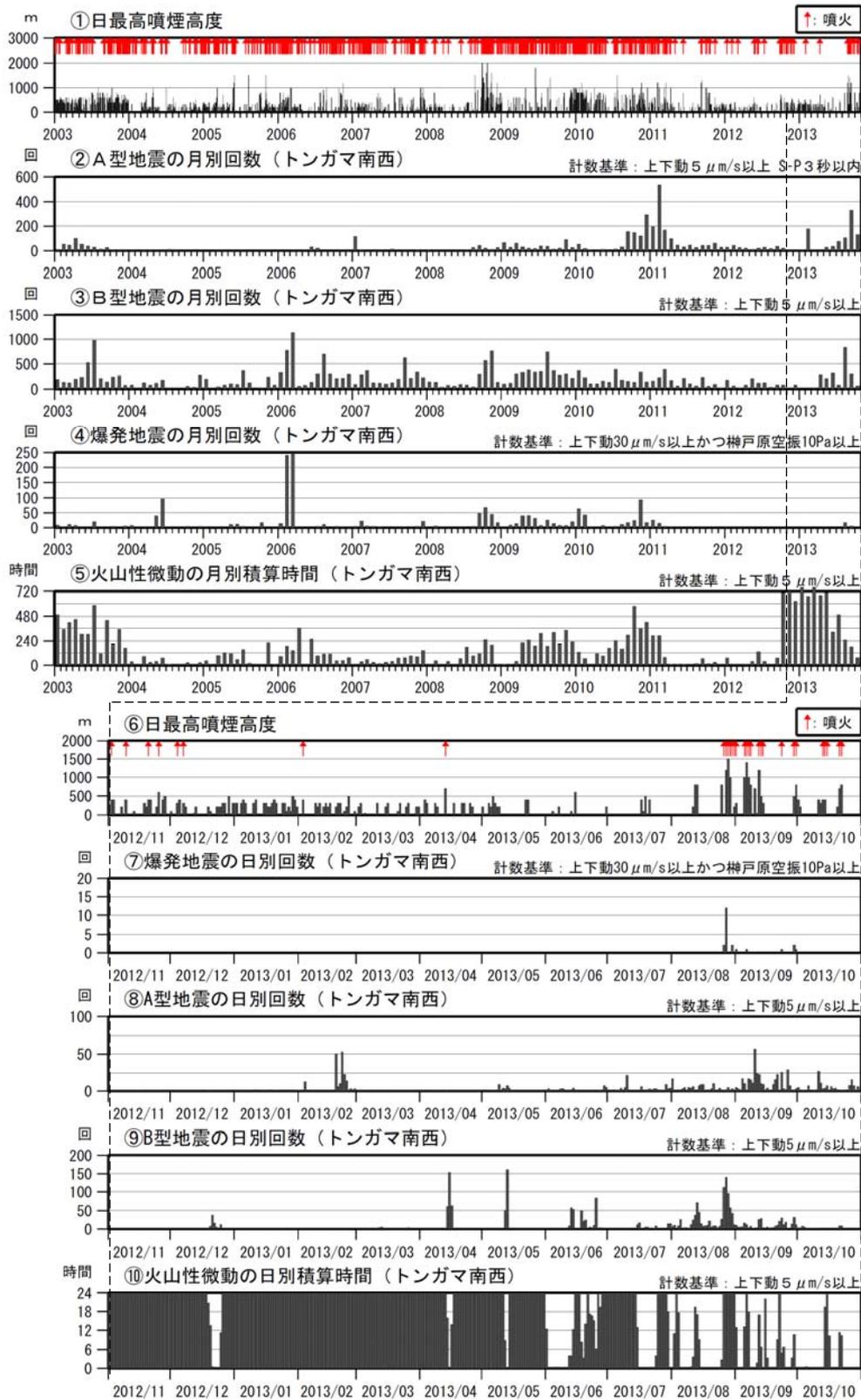


図3 諏訪之瀬島 火山活動経過図（2003年1月～2013年10月）

<10月の状況>

- ・噴煙の最高高度は、火口縁上 800m（9月：最高 1,400m）でした。
- ・火山性地震の月回数はA型地震 131回（9月：331回）、B型地震 64回（9月：303回）と減少しました。
- ・火山性微動の継続時間の月合計は 77時間 18分（9月：178時間 4分）でした。

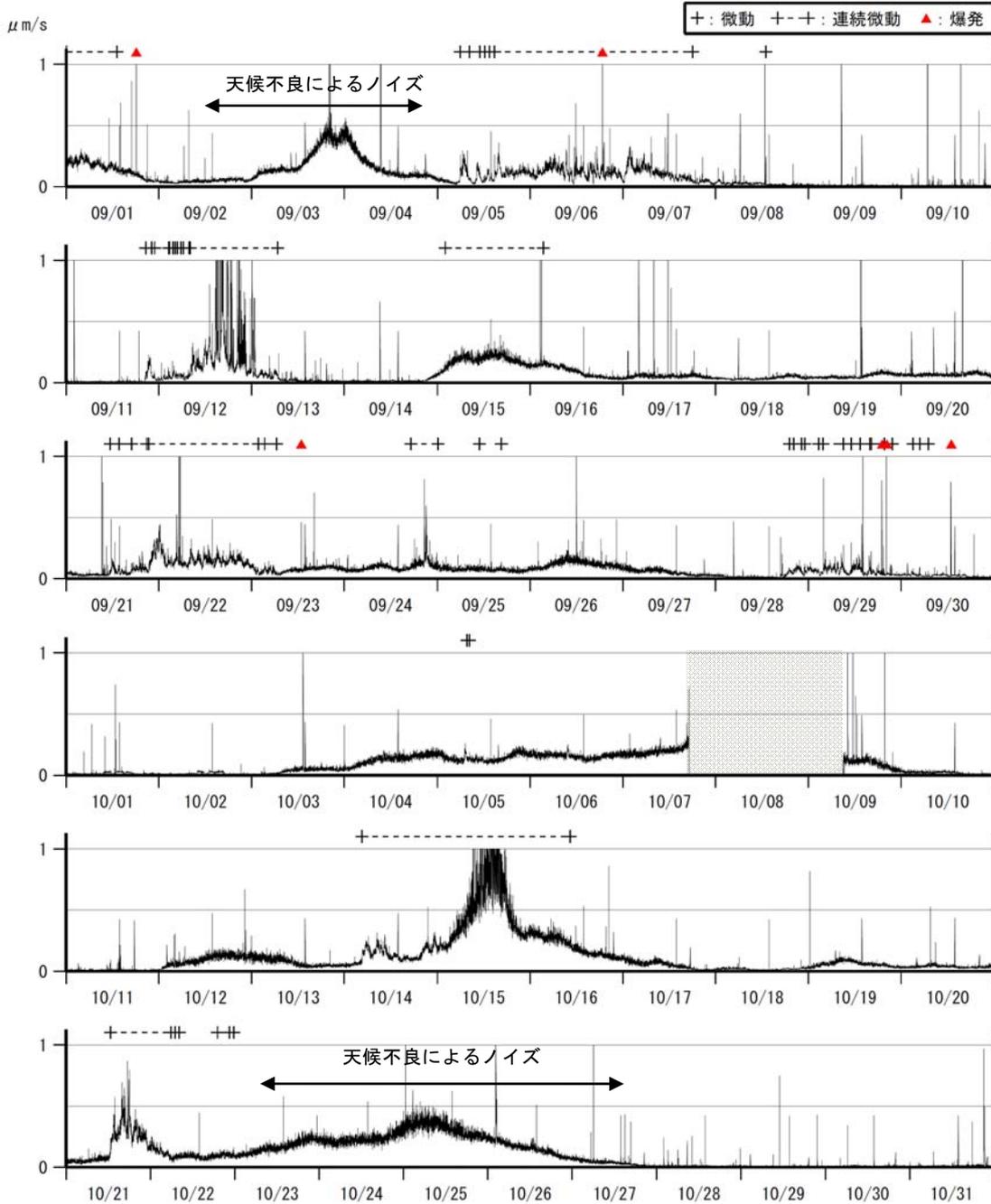


図 4 諏訪之瀬島 1 分間平均振幅の時間変化（ナベタオ観測点上下動成分）（2013 年 9 ～10 月）  
 <10 月の状況>

火山性微動は、断続的に発生しています。  
 灰色の部分は機器障害のため欠測を示しています。

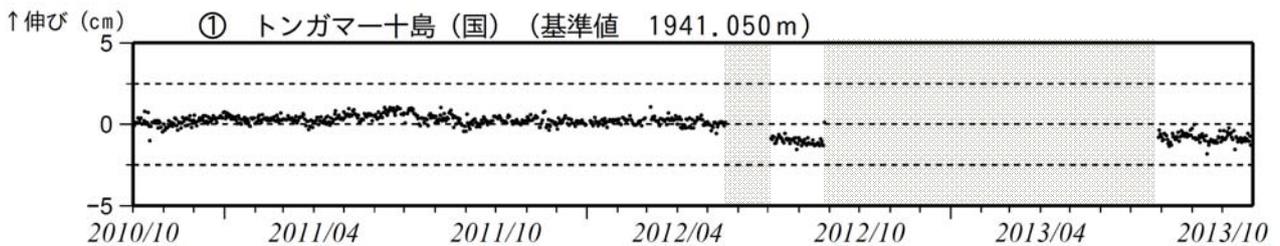


図 5 諏訪之瀬島 GPS連続観測による基線長変化（2010 年 10 月～2013 年 10 月）  
 火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図 2 の①に対応しています。  
 灰色の部分はトンガマ GPS 観測点の機器障害のため欠測を示しています。